茨城県臨床工学技士会

1．基本情報

名称：茨城県臨床工学技士会

２．目的

当臨床工学技士会（以下、技士会）は、臨床工学技士の職業倫理を高揚するとともに、学術技能の研鑽及び資質の向上に努め、県民の福祉、医療の普及発展に寄与する事を目的に掲げ鋭意活動している。

３.組織

技士会の設立は 1991/11/1 である。前身の茨城県透析技術談話会が母体となり設立準備委員会を立ち上げ、会員のコンセンサスを得て、発展的に移行設立された。日本臨床工学技士会法人化まで及び現在に至るまで活動原資が滞ることが無いよう全面協力してきた。

現組織体制は、理事 10 名と監事 2 名で構成され、理事会を最高決定機関と位置づけ運営している。理事及び監事の任期は２年で選挙により選出され、会長、副会長、事務局長は理事会にて選任決定される。理事を中心とする理事会が技士会全体を統括し、事務局は会員への情報発信の源として機能し、会員情報の把握と登録、各種イベント案内、会誌発送などの活動を担っている。会計担当は、収支など活動の基盤となる財務を管理している。

会員数は毎年順調な伸びを示し、2007/4/1 現在で 210 名となっている。会員数の増加に対応するために理事数は、2007 年度から 12 名に増員変更し、委員会活動の活性化を目指し邁進している。

４.委員会

委員会は従来までは選挙管理委員会があるのみで理事会が総合的に取り纏めてきた。H19 年度から迅速決定を目標とし理事会から分化発展的に、①法人化検討委員会、②学術・教育委員会、③情報宣伝委員会、④編集委員会などが新設される見込みとなっており、活動成果は今後に期待されるところである。その他として各病院単位では実施しにくい研修・講習を、技士会が集約して実施できるようにしていくことを念頭に、4 つの専門ワーキンググループ（以下ＷＧ）体制で活動している。

4-1　人工呼吸器ワーキンググループ

人工呼吸器関連の独自マニュアルなどの作成、関係製品製造会社の工場見学、更には県技士会学術大会で活動内容を発表するなどの活動を行なっている。

4-2　循環器ワーキンググループ

心臓血管外科（人工心肺、補助循環）、循環器内科（心カテ）領域を中心としたＷＧである。

4-3　機器管理ワーキンググループ

機器の点検・整備・修理についてのＷＧで、医療機器管理方法のシステム充実を目標に掲げ活動を開始したばかりである。

4-4　代謝ワーキンググループ

血液浄化療法を中心とし、水質管理や安全対策などの研修会を実施するなど基本的事項の徹底に取り組んでいる。

５.事業内容

2006 年度の主たる実施事業について列記する。現在まで、当団体自ら収入に結びつく事業はなく、総会開催時の展示及びコマーシャルタイム枠の有料化を検討中である。更に、法人化を見据えた事業内容及び財務基盤の確保が急務となっている。

主な定例事業として、学術大会、講演会、勉強会があり、定期刊行物として『茨城県臨床工学技士会会誌』（通算 13 号）を発行している。

2007 年 6 月には、日本病院学会が茨城県担当となり臨床工学技士会部門のワークショップ（3 回目）が開催される。9 月には、災害対策に関連し市民公開講座を開催する。

【2006 年度】

4 月 23 日　平成 18 年度茨城県臨床工学技士会総会　施設発表
『血液回路を考える』：県内３施設発表

7 月 23 日　茨城県臨床工学技士会勉強会（図 1）
『挿官患者のための過湿レベル』、『ﾍﾓﾀﾞｲﾅﾐｯｸﾓﾆﾀﾆﾝｸﾞｼｽﾃﾑの現状』
『スマートケアについて』

12 月 3 日　第 9 回茨城県臨床工学技士会学術大会（図 2）
特別講演 1『透析液の清浄化』
特別講演 2　輸液ﾎﾟﾝﾌﾟ・ｼﾘﾝｼﾞﾎﾟﾝﾌﾟ安全対策機構の開発』
一般演題　4 演題

６.おわりに

臨床工学技士の職能としての認識度は未だ十分とはいえない状況であるが、改正医療法で 2007 年度から医療機器安全管理責任者の設置が義務づけられ、大きなチャンスが巡ってきた。業務指針的にも医療機器安全管理責任者には臨床工学技士が適任だと思われ、専任されることで技士の存在意義も大きくアップされると思われる。反面、施設間において職能組織の充実には大きな差があることも事実で、ここに技士会の関与する役割があると考えている。今後は、法人格の取得が大きな取り組みとなり、特に社会貢献部分の充実を会員と共に考え事業を創出し邁進させていきたい。

写真 1：勉強会

写真 2：茨城県臨床工学技士会学術大会